「世界をつなぐ」

下呂中学校三年　今井　ここな

「やさしい日本語」この言葉を聞いたことがありますか？「やさしい日本語」とは難しく理解しにくい日本語ではなく、「簡単な日本語」のことです。「やさしい日本語」で話す大切なポイントは「ハサミの法則」だと言われています。これは、「はっきり言う」の「ハ」、「最後まで言う」の「サ」、「短く言う」の「ミ」を合わせたものです。「やさしい日本語」は、通常、外国の方に使うものと認識されています。

私が通う下呂中学校には外国籍の生徒が九人います。その九人の生徒の不安が少しでもなくなるように日頃から国際化を考えた活動をたくさん行っています。私は、中学校生活を通して、下呂市で、日本で、外国から来た方々が安心して暮らせるように、「やさしい日本語」をもっと活用していくべきだと考えます。

私が中学一年生の時、タイから転校生が来ました。そのときの私は、英語もタイ語も話せなかったので、自分からその子に話しかけることができませんでした。そんな中、その子は私が所属しているテニス部に入部したいと言ってくれました。私はすごく嬉しかったです。でも、不安がありました。それは「練習方法を伝えたりアドバイスしたりなど、コミュニケーションが上手くとれるのか」という不安でした。初めのころは翻訳機を使っていたので困ることはなかったのですが、このままでは自分の伝えたいことも伝えにくいし、その子も日本語を覚えるのが遅くなってしまうのではないかと思いました。「自分も相手も気軽に安心してコミュニケーションがとれるようにするにはどうしたらいいのだろう」と考えました。そこで、その子と練習をする時に、なるべく簡単な日本語を使ったりジェスチャーも入れたりして話しました。具体的には、「休憩」を「ちょっと休もう」と伝えてみたり「給水」を「水を飲んでね」と伝えてみたりしました。初めはその子も「分からない。」と言っていたけど、だんだんと「うん。分かったよ。」に変わっていきました。私は自分のことのようにうれしく思いました。そんな時、その子がボランティアに一緒に行きたいと言ってくれました。少しずつ日本や日本語に慣れたのかなと思い、この時もすごく嬉しかったです。ボランティア当日の休憩時間には、その子が日本語で世間話をしてくれました。すごく仲良くなれたと感じました。三年生になりクラスが離れた今でも廊下で挨拶を交わし、コミュニケーションが取れています。私は、この経験を通して、簡単な言葉で伝えることで相手と会話をしたり、その会話を広げたりすることができるし、相手も日本語がわかるようになって安心できることを実感しました。それからは、他の外国籍生徒の子と会話するときも自分から話題を出し、簡単な日本語を使い、時にはジェスチャーもまぜながら話すことを意識しました。そうすることで話している私に会話を広げる力がつき、相手ともっとたくさん話したいという気持ちになりました。また、日本語が分かりやすい分、私の言いたいことが伝わりやすくなったり、外国籍の子ももっと日本語について知りたいと前向きな気持ちになったりしたのではないかと思いました。

「やさしい日本語」は、外国の方々とコミュニケーションを取るのに必要なものだと思います。しかし、このことは外国の方々に対してだけでいいのでしょうか。私は、そうは思いません。お年寄りの方、幼い子ども、障がいのある方など、様々な方に「やさしい日本語」で接していく必要があると思います。「やさしい日本語」は「相手のことを考える思いやりの心」であり、「人と人が繋がるための一つの方法」だと考えているからです。そうすることで、自分の世界を広げ、相手の世界も広がり、みんなが安心できる居心地の良い世界をつくっていけるのではないでしょうか。

私は今、こんな世界をつくっていくために、自分からいろいろな人に話しかけたり、ボランティア活動に参加したりして自分自身の世界を広げています。また、その時には相手がどう思うか、相手の気持ちを考えることも大切にしています。私は、今年で中学校を卒業し、将来は社会の一員として働き、今よりも多くの人と接していくことになります。これからも、外国の方々に限らず、相手の年齢や立場を思いやり、尊重し、「やさしい日本語」を使ながら、いろいろな人と楽しく温かい関係を築いていきます。